大学院

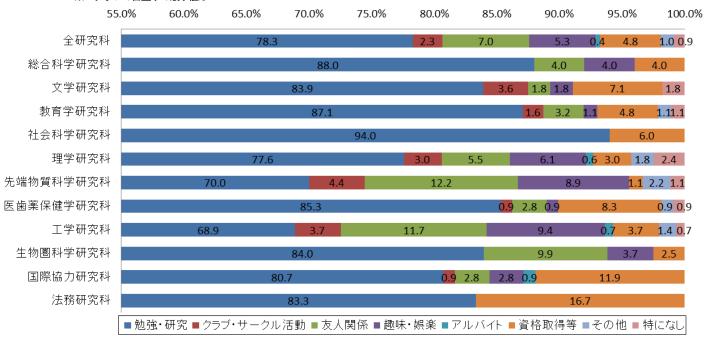
(※ 構成比は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても100にならない場合があります)

1 大学生活において大切にしているもの

設問1 大学生活において何を大切にしていますか。

大学院生になると、大切にしているものとして全体の78.3%が「勉強・研究」と回答しており、学部生の55.2%に比べかなり高くなっている。一方、「友人関係」7.0%(学部生16.3%)、「趣味・娯楽」5.3%(学部生9.1%)は学部生より低くなっており、研究に比重を置いた生活となっていることが推測される。また法務研究科と国際協力研究科、医歯薬保健学研究科においては「資格取得等」を大切と考えているという回答が他の研究科よりも多かった。

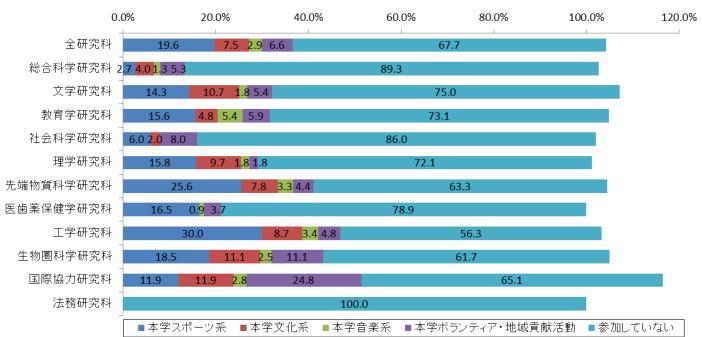
※ グラフの目盛りの最小値は55%



2 学内のクラブ・サークル活動への参加

設問2 学内のクラブやサークル活動に参加していますか。(複数回答可)

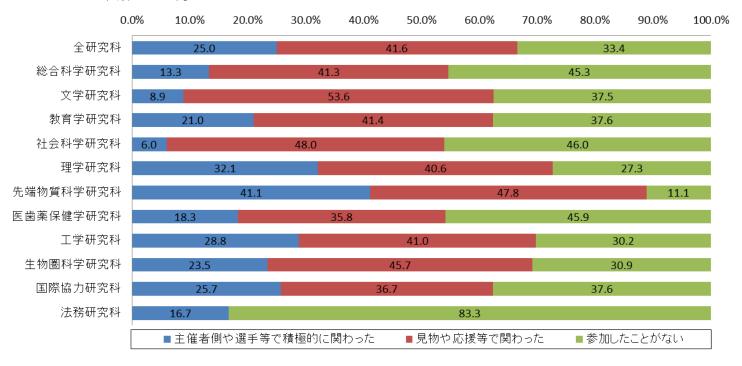
学内のクラブ・サークル活動に「参加していない」学生が、全体として67.7%と最も多い。研究科では、課外活動というより、研究中心の生活になることがこの結果につながっていると思われる。



3 大学の行事への参加

設問 3 大学祭、ゆかたまつり、フェニックスリレーマラソン、霞祭等の大学の行事に参加したことがありますか。

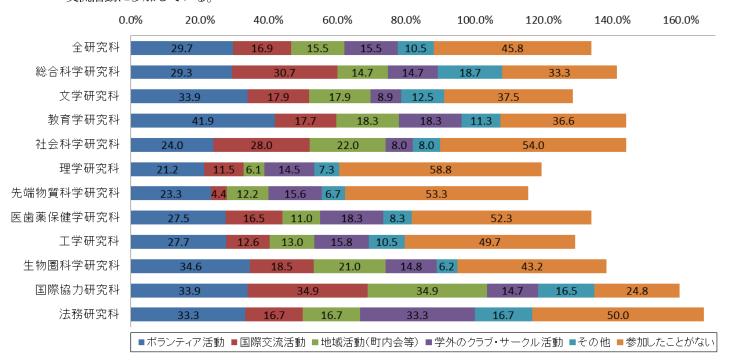
大学の行事に「見物や応援等で関わった」との回答が 41.6%で最も多く、続いて「参加したことがない」が 33.4%であった。その一方で、先端物質科学研究科では4割を超える学生が、主催者や選手等で積極的に関わったと回答している。



4 ボランティアや地域活動への参加

設問4 学外のボランティア活動や地域の活動に参加したことがありますか。 (複数回答可)

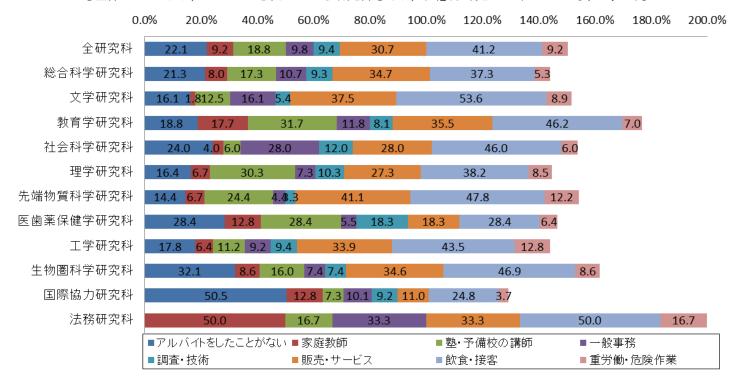
全体の半数近い45.8%が、学外のボランティアや地域の活動に参加したことがないと回答している。その一方で、教育学研究科では4割を超える学生がボランティア活動に、国際協力研究科では35%ほどの学生が国際交流活動に参加している。



5 アルバイト

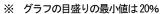
設問5 入学後何らかのアルバイトをしたことがありますか。(複数回答可)

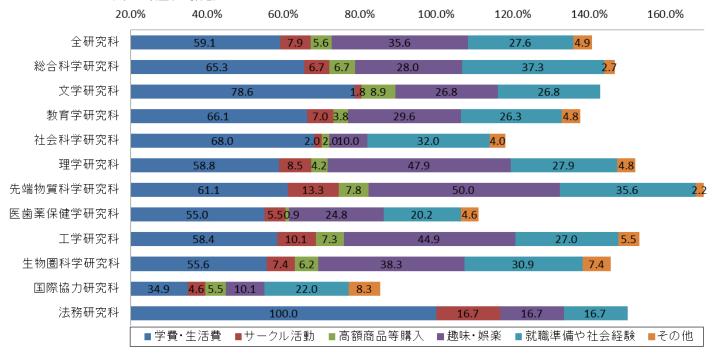
「アルバイトをしたことがない」と回答したのは、全体では 22.1%である。アルバイトの内容としては、「飲食・接客」が 4割、続いて「販売・サービス」「塾・予備校の講師」となっている。重労働・危険作業の経験者も全体で 9.2% おり、 $12\sim16\%$ を占めている研究科もあり、 注意深く見ていくことが必要と考える。



設問6 アルバイトの主な目的は何ですか。(複数回答可)

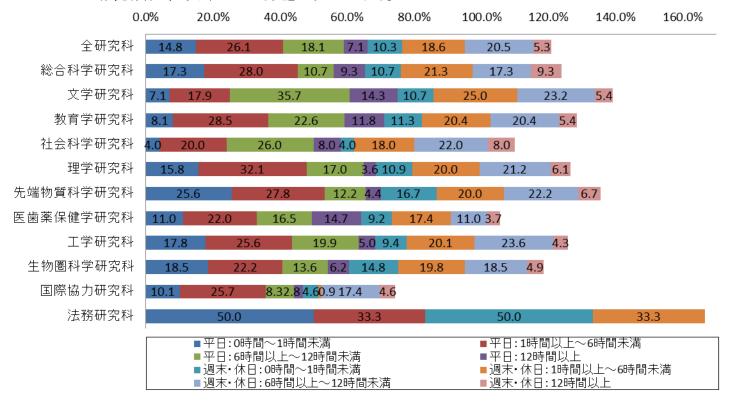
アルバイトの目的としては、6割程が「学費・生活費のため」と回答し、「趣味・娯楽」(35.6%)、「就職準備や社会経験」(27.6%)と続く。学費・生活費のためとの回答は、前回調査よりも減少傾向にある。研究科毎の違いについては、社会人学生や留学生の占める割合の違いが、影響しているものと考えられる。





設問7 一週間あたりアルバイトを何時間していますか。「平日」及び「週末・休日」それぞれの中から一つ ずつ選択してください。

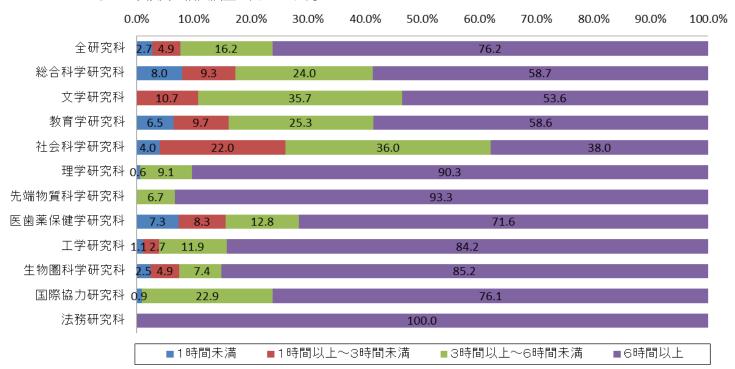
「平日:1時間以上6時間未満」(26.1%),「週末・休日:6時間以上12時間未満」(20.5%),「週末・休日:1時間以上6時間未満」(18.6%)が上位3つの回答である。研究に忙しい中,自分のペースに合わせて時間を確保し,取り組んでいる実態がうかがわれる。



6 大学構内での滞在時間・場所について

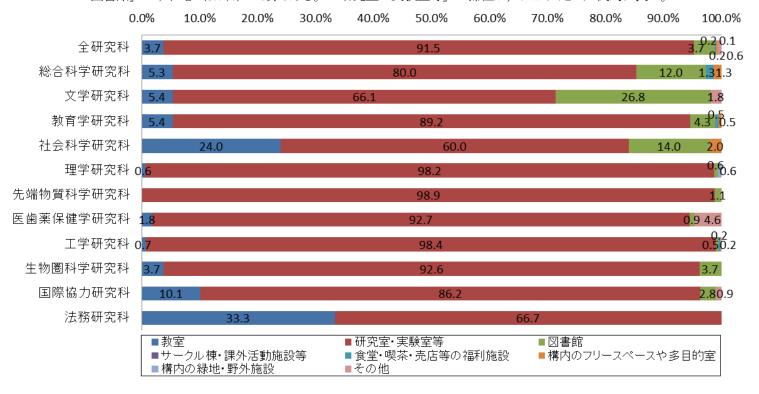
設問8 一日に大学構内にどれくらいの時間滞在していますか。

全体では、76.2%の学生が6時間以上構内に滞在している。研究科別に見てみると、多い順に法務研究科、 先端物質科学研究科、理学研究科、生物圏科学研究科となり、6時間以上滞在する学生が少ないのは、社会科 学研究科、文学研究科となっている。理系研究科の学生の方が、法務研究科を除いた文系に比べ長時間滞在し ているという傾向は前回調査と同じである。



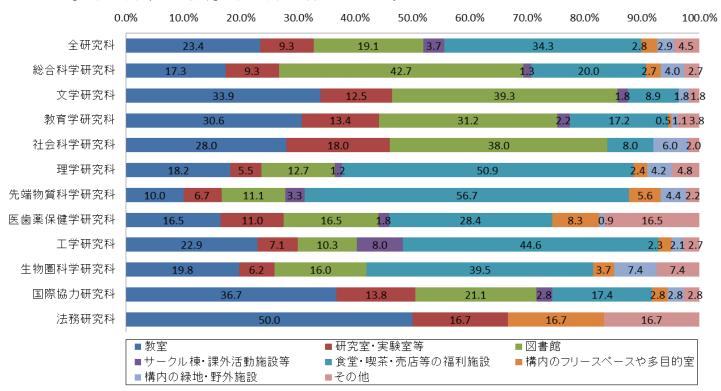
設問9 大学構内の滞在時間のうち、1番多く滞在している場所はどこですか。

大学内で一番長く滞在している場所を見てみると、全体では「研究室・実験室等」(91.5%)、「教室」と「図書館」いずれも(3.7%)の順である。「研究室・実験室等」の滞在が、ほかに比べ圧倒的に長い。



設問10 大学構内の滞在時間のうち、2番目に多く滞在している場所はどこですか。

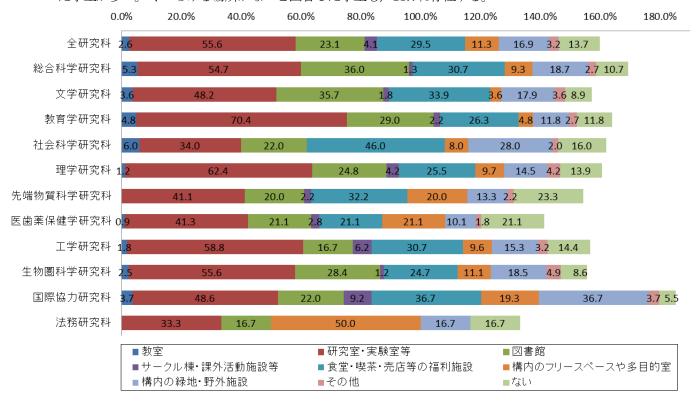
大学構内で2番目に長く滞在している場所は、全体では「食堂・喫茶・売店等の福利施設」(34.3%)、「教室」(23.4%)、「図書館」(19.1%)の順となっている。



7 大学構内でくつろいで過ごせる場所

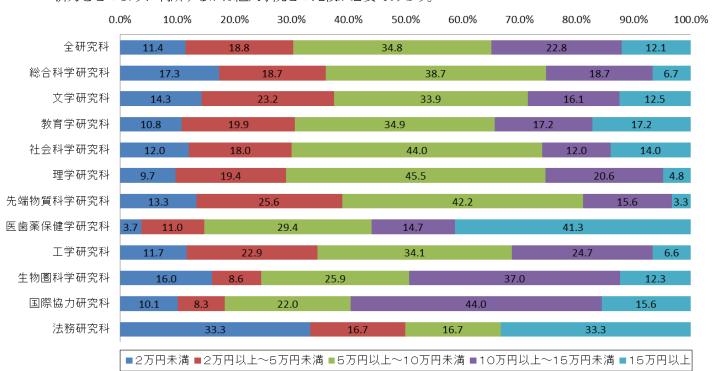
設問 11 大学内にくつろいで過ごせる場所はありますか。(複数回答可)

大学構内でくつろいで過ごせる場所は、全体では「研究室・実験室等」(55.6%)、「食堂・喫茶・売店等の福利施設」(29.5%)、「図書館」(23.1%)、「構内の緑地・野外施設」(16.9%)の順である。社会科学研究科と法務研究科を除き、最も滞在時間の長い「研究室・実験室等」をくつろいで過ごせる場所と回答した学生が多い。くつろげる場所がないと回答した学生も、13.7%存在する。



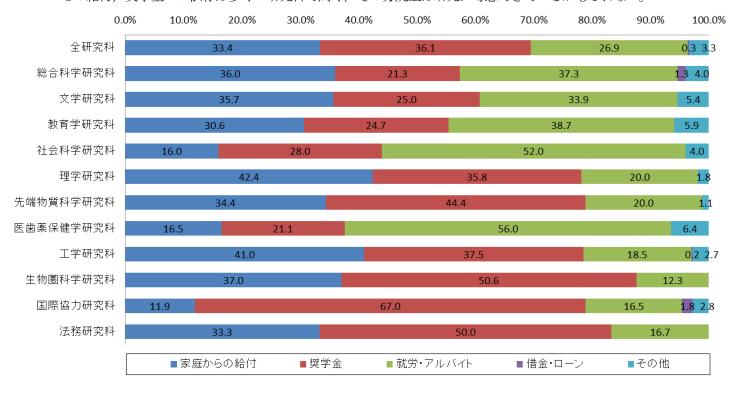
8 1ヶ月の生計費(収入・支出) 設問12 1ヶ月の収入はいくらですか。

各研究科に応じてバラつきが認められる。例えば、法務研究科では2万円未満と、15万円以上割合が同数であり、院生の経済力に格差があるように思われる。また、約半数の研究科で5万円以上~10万円未満の割合が最も多く、また医歯薬保健学研究科、国際協力研究科の院生の経済力が高いように思われる。総じて院生の経済力をどのように判断するかは他大学院との比較が必要であろう。



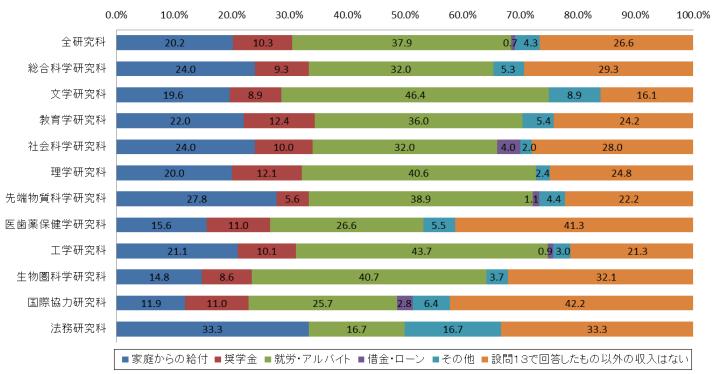
設問13 1ヶ月の収入のうち、1番多い収入は、次のどれですか。

全研究科で見た主たる収入源は家庭からの給付、奨学金、就労・アルバイトの間で大差はない。しかし、国際協力研究科の院生は奨学金への依存が高く、社会科学研究科、医歯薬保健学研究科の院生は家庭からの給付への依存が低く、同じく医歯薬保健学研究科の院生は就労・アルバイト収入への依存が高い。しかし、家庭からの給付、奨学金への依存は多くの研究科で高く、その分院生は研究に専念できているかもしれない。



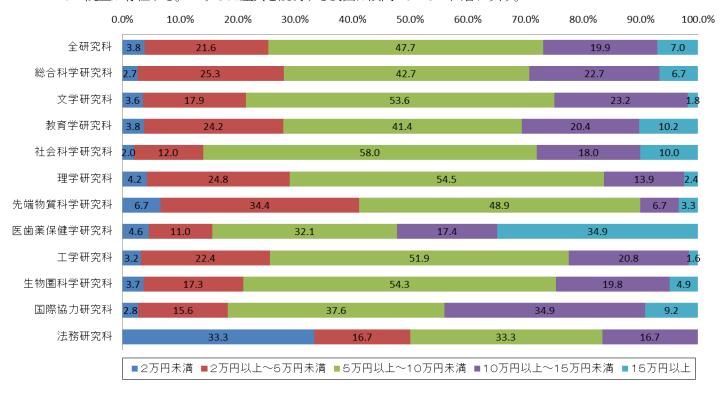
設問14 1ヶ月の収入のうち、2番目に多い収入は、次のどれですか。

2番目に多い収入としては、就労・アルバイトの割合が高くなる。設問 13 と併せると、就労・アルバイトの収入が院生の副次的就労・アルバイトの収入である傾向がみられる。また、設問 13 で見た収入以外の収入がない院生の割合も高く、最も多い収入のみで研究に当たる院生も多く、その分安定した収入を一部の院生が得ているとも言いうる。



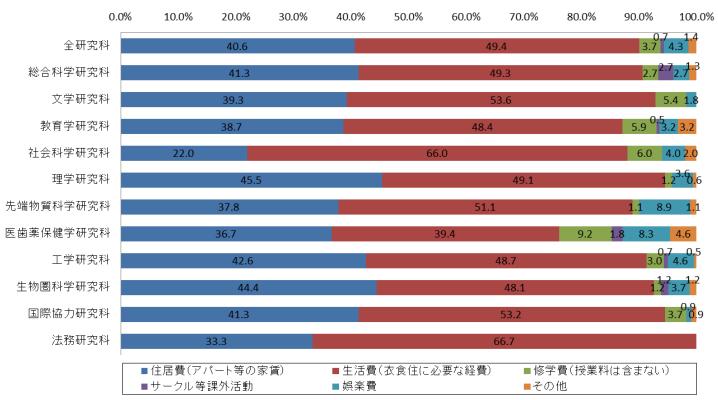
設問 15 1ヶ月の支出はいくらですか。

多くの研究科で5万円以上 \sim 10万円未満が多く、ただ、法務研究科においては2万円未満が相当数を占めており、やや低い傾向がある。しかし、医歯薬保健学研究科の院生は15万円以上が34.9%もあり、支出額が多めの院生が存在する。こうした差異を説明する要因は設問 $16\sim$ 18の回答に負う。



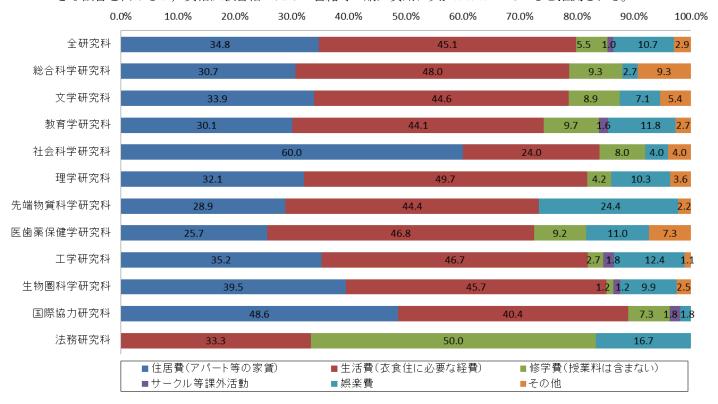
設問16 1ヶ月の支出のうち、1番多く必要とする経費は何ですか。ただし、授業料は含みません。

全研究科で住居費、生活費でほとんどの割合を占めている。院生の経済的負担の多くがこの2つの支出からなっている。なお、法務研究科についてはこの2つの支出が最も多い支出のすべてである。また医歯薬保健学研究科の院生については修学費、娯楽費もそれぞれ1割弱を占めており、例えば、修学費として高価な書籍等の購入を行っている院生の存在をうかがわせる。



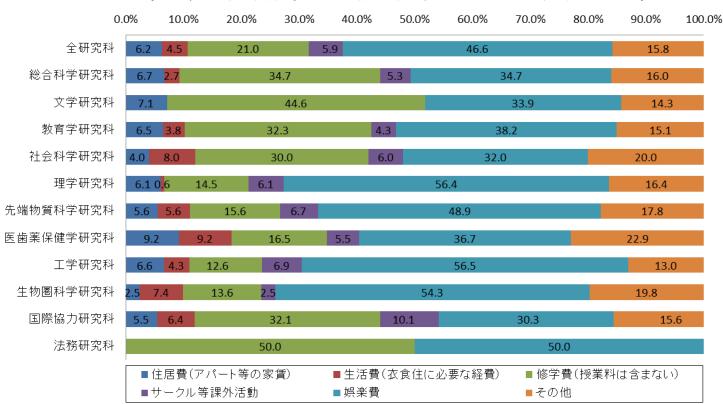
設問17 1ヶ月の支出のうち、2番目に多く必要とする経費は何ですか。ただし、授業料は含みません。

設問 16 と同じように、法務研究科を除く研究科において住居費、生活費で上位 2 項目を占める。したがって、院生の主たる経済的負担は住居費、生活費であることが改めて分かる。法務研究科においては修学費が大きな割合を占めるが、資格試験合格のための書籍等の購入費用に負担がかかっていると推測される。



問18 1ヶ月の支出のうち、3番目に多く必要とする経費は何ですか。ただし、授業料は含みません。

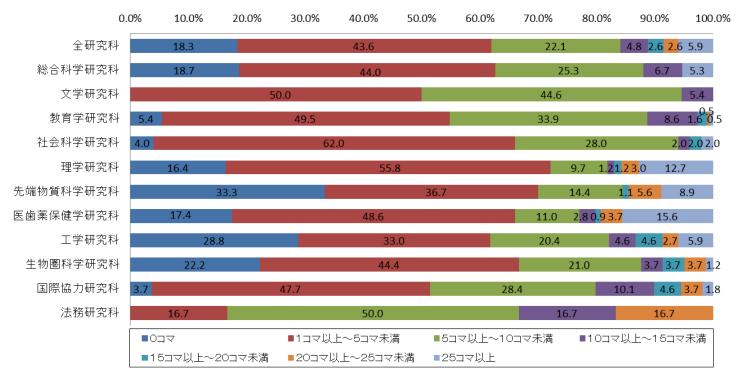
設問 18 においては、いずれの研究科においても娯楽費の割合が高くなっている。設問 16, 17 と併せると、院生の支出は専ら生活に宛てられており、娯楽は副次的な支出となり、健全な院生生活であることが推測される。また、修学費の割合もあり、図書館を上手に利用し、自ら負担する書籍費等を負担可能額に抑制しているのかもしれない。なお、その他の割合も多くの研究科で2割前後あるので内実を明確にすべきである。



9 1週間の学習時間

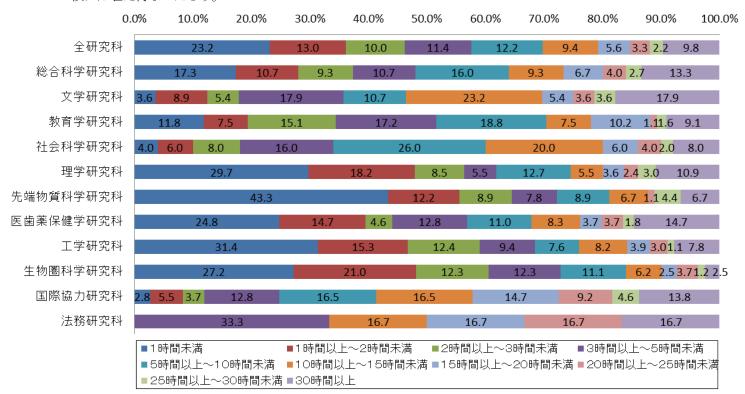
設問 19 授業期間中, 平均して 1 週間でどれくらいの時間を授業 (講義・演習・実験・実習若しくは実技) への出席にあてていますか。

学部生に比して、コマ数負担は多くは無いことがわかる。総括的には、理系研究科においてコマ数の負担が 抑えられていることがわかる。なお、法務研究科のサンプルサイズは6なので、比較には堪え得ないだろう。



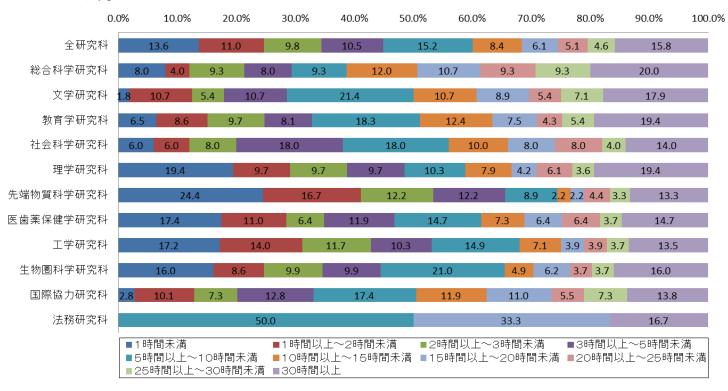
設問 20 授業期間中, 平均して 1 週間でどれくらいの時間を授業 (講義・演習・実験・実習若しくは実技) の課題, 準備・復習などにあてていますか。

設問 19 と同様、いわゆる理系研究科において授業時間に 1 時間未満の時間しか割り当ててない学生の割合が多い。ただ、学年や必修のコマ数、研究室単位での研究活動と密接に関わっていると予想されるので、この数値だけで時間の多寡(の善し悪し)を判断はできない。なお、法務研究科のサンプルサイズは 6 なので、比較には堪え得ないだろう。



設問 21 授業期間中, 平均して 1 週間でどれくらいの時間を授業とは関係のない自主的な学習にあてていますか。

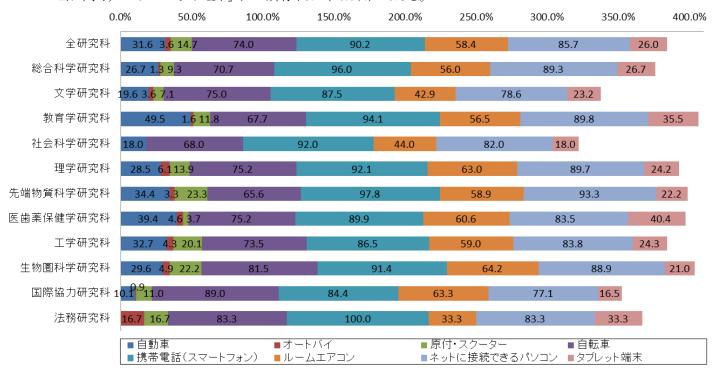
設問 19,20 と同様に、いわゆる理系研究科において、授業とは関係無い自主的な学習時間として 1 時間未満しか割り当ててない学生の割合が多い。なお、法務研究科のサンプルサイズは 6 なので、比較には堪え得ないだろう。



10 所有もしくは占有している物

設問22 所有もしくは専用物がありますか。(複数回答可)

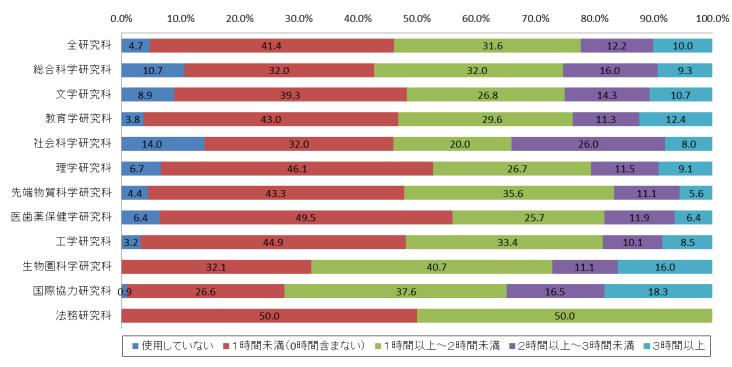
所有率をみると、移動手段としては、「自転車」(74.0%)、「自動車」(31.6%)、「原付・スクーター」(14.7%)の順である。「携帯電話」(90.2%)、「ネットに接続できるパソコン」(85.7%)の所有率は相当に高く、「iタブレット端末」)の所有率は(26.0%)である。



1 1 Social Network Service の使用状況について

設問23 Facebook・Instagram・LINE・Twitter等のSNS(Social Network Service)を1日でどれくらいの時間使用していますか。

全体として、SNS を「使用していない」学生は4.7%であり、前回(平成29 年度)と等しい。使用時間が1時間以上の学生は53.9%であり、全体として、1日のかなりの時間をSNS に費やしているといえる。

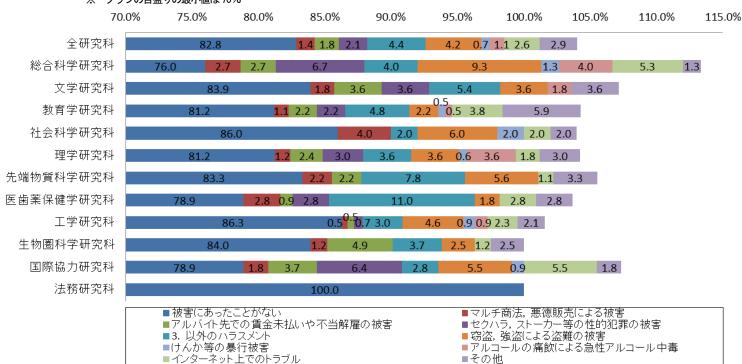


12 犯罪やトラブルなどの被害経験(複数回答可)

設問24 学生生活において、何らかの犯罪や民事上の被害・トラブルを経験したことがありますか。

全体として、何らかの犯罪や民事上の被害・トラブルと経験したことがある学生は17.2%であり、前回(平成29年度)(21.6%)と同程度である。被害・トラブルの状況について、全体としては、「セクハラ、ストーカー以外のハラスメント」(4.4%)「窃盗、強盗による盗難」(4.2%)、「インターネット上でのトラブル」(2.6%)の順である。

※ グラフの目盛りの最小値は70%

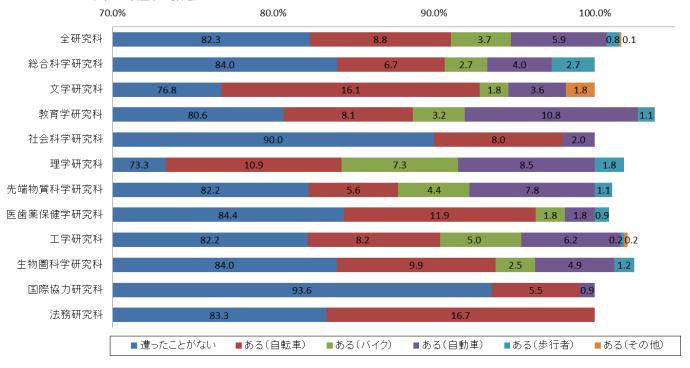


13 交通事故の経験

設問25 在学中交通事故に遭ったことがありますか。(複数回答可)

全研究科合計では、在学中交通事故遭遇の割合は17.3%であり、前回(H29, 18.2%)からは減少したものの、依然として学部(13.4%)と比較して高く、また特に自動車事故とバイク事故の割合が高い。重大損害の懸念もあり、一層の注意を呼び掛けたい。

※ グラフの目盛りの最小値は70%

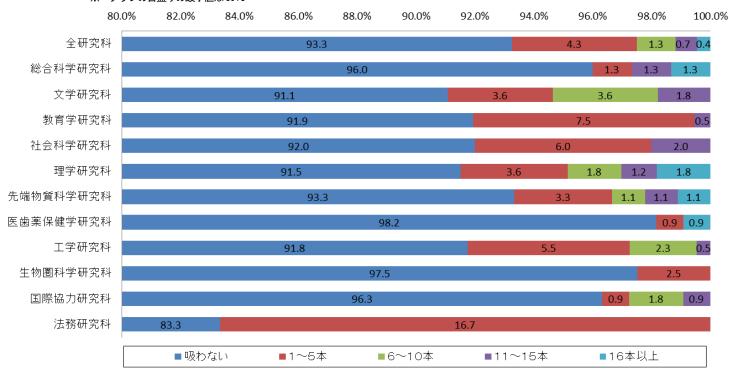


14 喫煙及び飲酒の習慣

設問26 喫煙の習慣がありますか。1日に吸う本数をお答えください。

全研究科合計で習慣的に喫煙している者の割合は6.7%であり、前回(6.0%)とほぼ同様の結果であった。これまでの調査から、喫煙率は10.8%(H24)、7.0%(H26)と年々減少傾向にある。

※ グラフの目盛りの最小値は80%



設問27 飲酒の習慣がありますか。1週間に飲む日数でお答えください。

全研究科合計で58.3%の院生はほとんど飲酒しないと回答しており、週3日以上飲酒習慣のある者の割合は 8.5%であり、いずれも前回とほぼ同様であった。週3日以上の飲酒習慣がある者の割合が1割を超えていたの は、医歯薬保健学研究科と理学研究科であった。

※ グラフの目盛りの最小値は30%

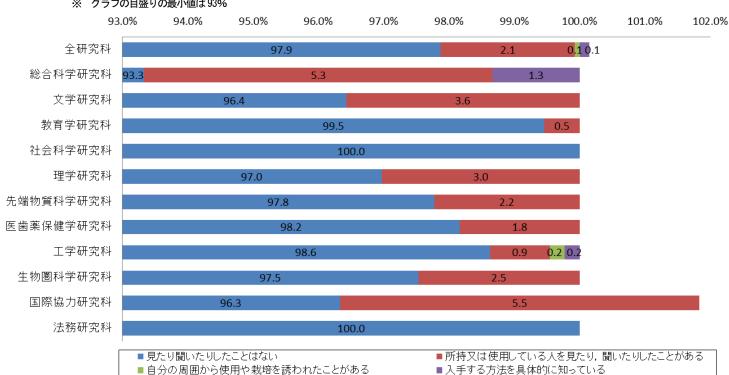


15 薬物 (大麻等・覚醒剤) や危険ドラッグ等について

設問28 薬物(大麻等・覚醒剤)や危険ドラッグ等について、該当するものを選択してください。(授業・研 究目的のものは除く)(複数回答可)

全研究科合計では「見たり聞いたりしたことはない」という回答が 97.9%であり、前回 (98.1%) とほぼ同 様の傾向であった。しかしながら法務研究科と社会学研究科を除く全ての研究科において「所持又は使用して いる人を見聞きしたことがある」の回答があり、特に国際協力研究科と総合科学研究科は他の研究科よりその 比率が高かった。

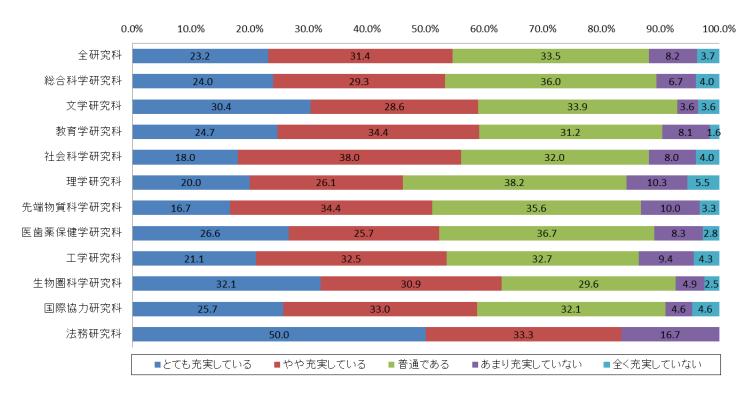
※ グラフの目盛りの最小値は93%



16 授業以外の学生生活の充実度

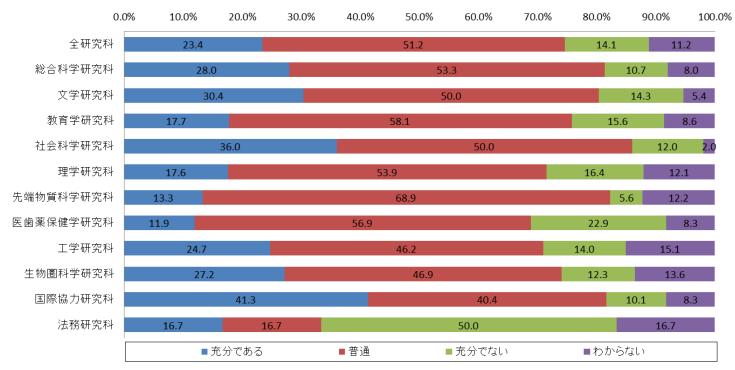
設問29 授業以外の学生生活を充実して過ごしていますか。

学部生に比して、充実している(とても+やや)と答えている学生の割合が低い。「普通」まで含めるといずれの研究科においても9割を超えているので、特に問題は無いと見なしても良いだろう。なお、法務研究科のサンプルサイズは6なので、比較には堪え得ないだろう。



17 授業以外の学生生活に対する大学のサポート体制やサービス 設問30 授業以外の学生生活に関して、大学側のサポート(支援)体制やサービス内容・メニューは、全般 的に見て充分だと思いますか。

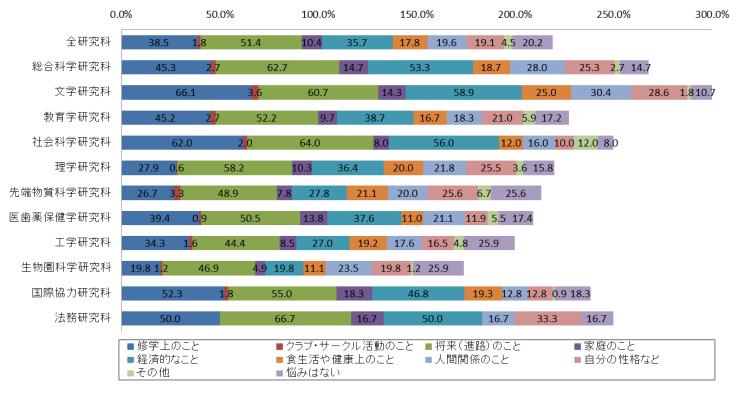
全般的には、「充分である」「普通」を併せて7割前後となっているので大きな問題は無いと見なして良いだろう。ただ、学部生調査でも類似の傾向が見られたが、医歯薬保健学研究科において、「十分でない」と答える学生の割合が目立つ。 霞地区固有の問題があるように思われるので、要因探索が必要だろう。



18 学生生活の悩み

設問31 学生生活の中で悩みがありますか。(複数回答可)

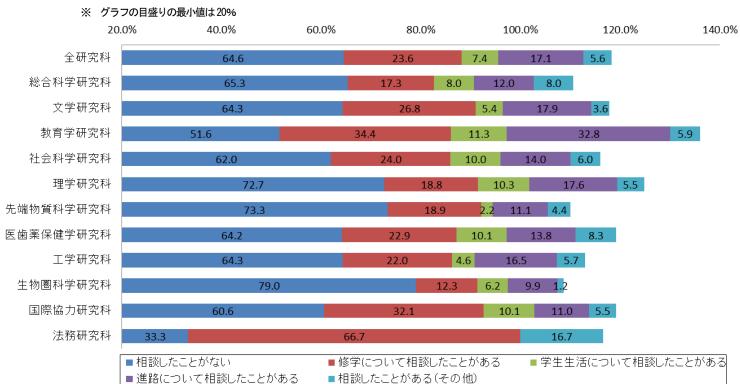
学生生活上の悩みとして、全ての研究科で「将来(進路)のこと」という回答が最も多く、全体として約半数が将来の不安を抱えている結果であった。学部生と比較して増えている悩みは、「経済的なこと」35.7%(学部生では24.7%)、「修学上のこと」38.5%(学部生では29.7%)であり、前回と同様の傾向であった。



19 相談内容と相談窓口

設問 32 修学や学生生活に関して相談するチューター教員がいますが、チューターに相談したことがありますか。相談したことがある場合は、相談内容を選択してください。(複数回答可)

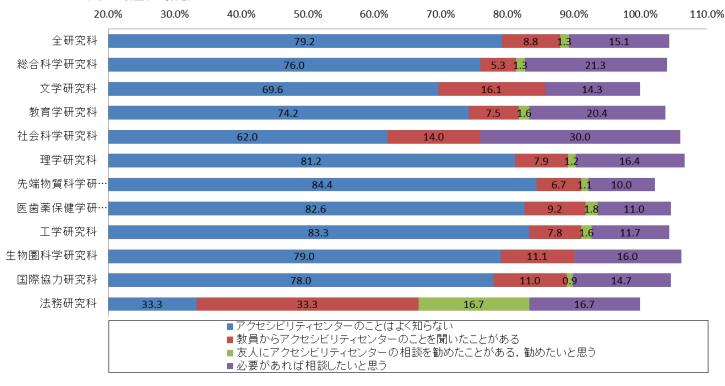
全研究科合計でチューター教員に相談経験があるという回答は 35.4%であり、前回(40.0%)と比較すると若干減少している。もっとも多く相談している研究科は、前回同様法務研究科であった。相談内容で多いのは、「修学」23.6%と「進路」17.1%であり、前回同様の傾向であった。



設問33 アクセシビリティセンターについて伺います。(複数回答可)

ほとんどの研究科で(法務研究科を除く),アクセシビリティセンターの認知度は低いと言える。この点,法務研究科については、教員をきっかけに知る機会があるようなので、差し当たり教員中心となって各部局のガイダンス、演習等を通じて周知をさらに行う必要がある。ただ、その一方で自身の相談の意向を持つ院生が少なくとも1割を超えている点にも着目すべきである。

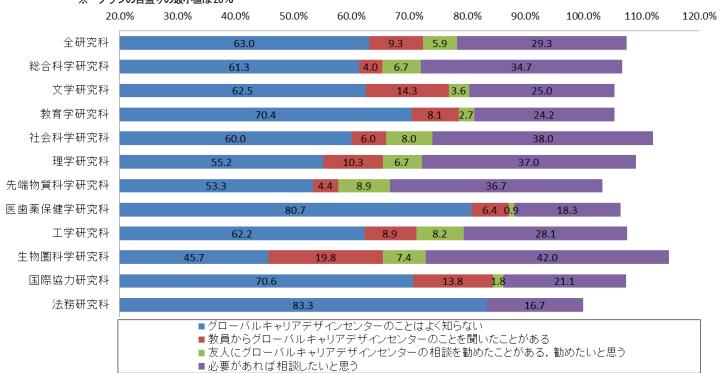
※ グラフの目盛りの最小値は20%



設問34 グローバルキャリアデザインセンターについて伺います。(複数回答可)

グローバルキャリアデザインセンターのことはよく知らないとの回答が6割を超える。しかしながら、学部生と比較すると知らないとの回答は1割程度低い。また、必要があれば相談したいと思うとの回答は、学部生よりも高く3割近い。社会への移行がより現実的なものとなっていることの表れではないかと思われる。

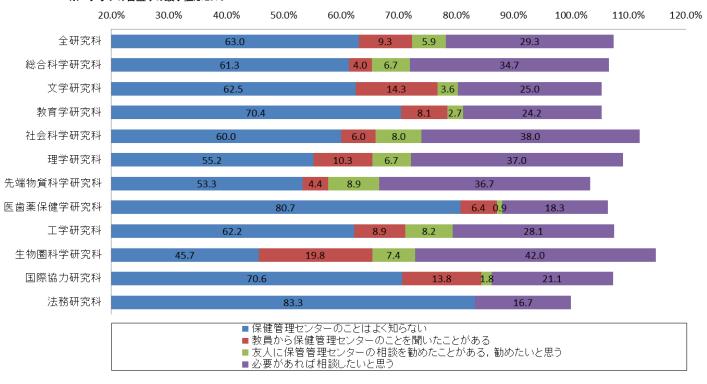
※ グラフの目盛りの最小値は20%



設問35 保健管理センターについて伺います。(複数回答可)

全研究科合計で63.0%が「保健管理センターのことはよく知らない」という結果であり、学部生と比べると「知らない」と回答した者の割合が高かった。また、「教員から聞いたことがある」の回答も9.3%と学部生の21.4%と比べるとかなり低かった。全体の傾向として、保健管理センターのことを知っているという回答が多かった研究科では、「必要があれば相談したい」という回答も多く、よく知らないという回答が8割を超えていた法務研究科と医歯薬保健学研究科では、相談したいという回答も2割を切っていた。

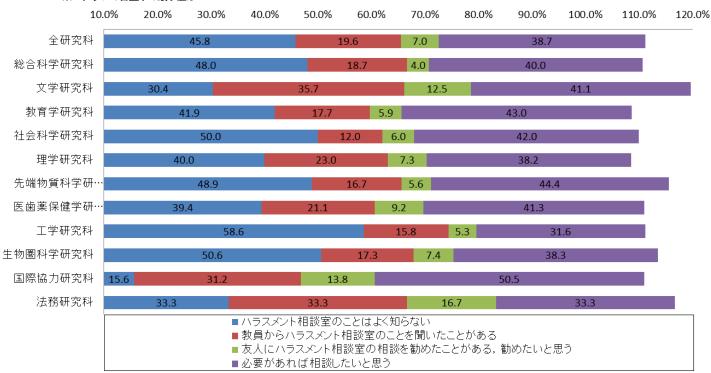
※ グラフの目盛りの最小値は20%



設問36 ハラスメント相談室について伺います。(複数回答可)

学部生調査に比して、「よく知らない」と答えた学生の割合がやや低く、且つ「必要があれば相談したいと思う」と答えた学生の割合も 3~5 割に達している点には留意が必要だろう。おそらく、学部生に比して、研究活動を通じた教員や院生間の関係が密になることから、ハラスメント相談室がより身近なものになっていると推察される。ただし、「よく知らない」の割合は、低いとは言えないので、学部生と同様に、年度初めに一斉ガイダンスを必修化するなどの対策が必要だと思われる。

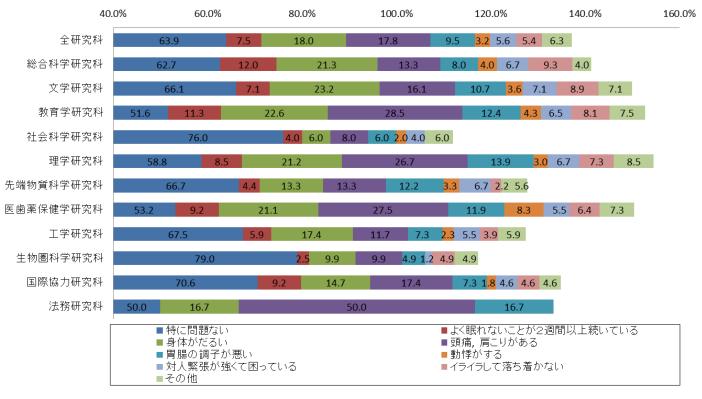
※ グラフの目盛りの最小値は10%



20 現在の健康状態

設問37 現在の健康状態はどうですか。(複数回答可)

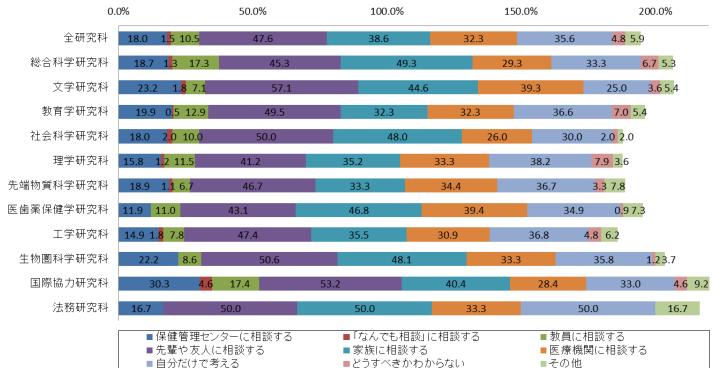
全研究科合計では、63.9%が特に問題ないと回答しており、前回(59.8%)よりやや良くなっているが、うつ状態の一つの指標となる「2週間以上の不眠」の項目では7.5%(学部生では4.9%)と学部生と比較すると比率が高くなっている。研究科別では、教育学研究科と医歯薬保健学研究科において約半数が体調に問題を抱えていると回答しており、他の研究科に比べて高く、前回同様の傾向であった。



21 身体面・心理面の悩みの解消

設問38 身体面、心理面で何か悩みが生じた場合には、 解消に向けてどうしますか。(複数回答可)

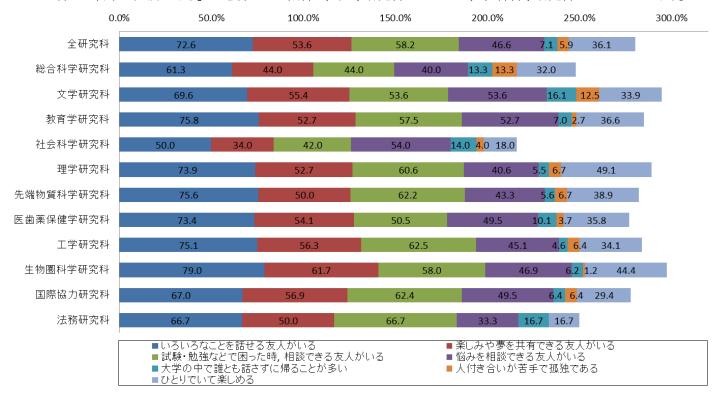
相談する相手として「先輩や友人」と回答した者の割合がもっとも高く 47.6%であった。次に「家族」38.6%、「医療機関」32.3%で、「保管管理センター」は 18.0%と前回(13.4%)に比べるとやや増加していた。過去の調査から今回の調査に至るまで、学部生・大学院生ともに相談相手としての第一選択は先輩・友人である。



22 友人との関係

設問39 友人についてお尋ねします。(複数回答可)

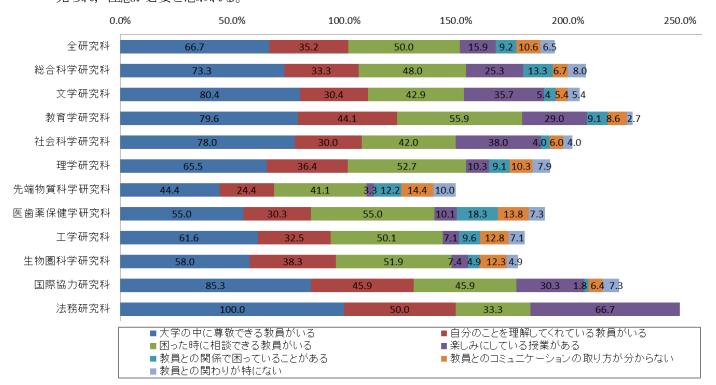
「いろいろなことを話せる友人がいる」は全体で7割を超える。困ったことや悩みを相談できる友人がいる との回答も4割から6割となっている。その一方で、「大学の中で誰とも話さずに帰ることが多い」と「人付き 合いが苦手で孤独である」とを合わせた割合が、文学研究科では28.6%、総合科学研究科では26.6%である。



23 教員との関係

設問40 教員についてお尋ねします。(複数回答可)

「大学の中に尊敬できる教員がいる」(66.7%),「困ったときに相談できる教員がいる」(50.0%) が上位2 つの回答であり、学部生と比較して20~30ポイント高い。研究を通して教員との関係が築かれていることが伺える。一方で、教員とのコミュニケーションの取り方がわからないや関係で困っていることがあるとの回答も見られ、注意が必要と思われる。

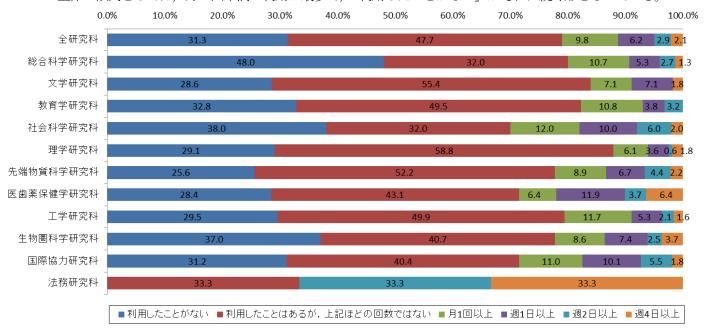


24 学生交流スペースの利用

設問 41 構内のフリースペースや多目的室を利用したことがありますか。利用している場合, どのくらいの 頻度で利用しますか。

学部生では「利用したことがない」が 11.3%であったが, 大学院生になると 31.3%が「利用したことがない」 と回答している。これは大学院生は研究室や自習室のように学生用スペースが確保されていることから, 学部生のようにフリースペース等を利用する機会が少ないと考えられる。

全体の傾向としては、月1回未満の利用が最多で、「利用したことがない」がそれに続く形となっている。



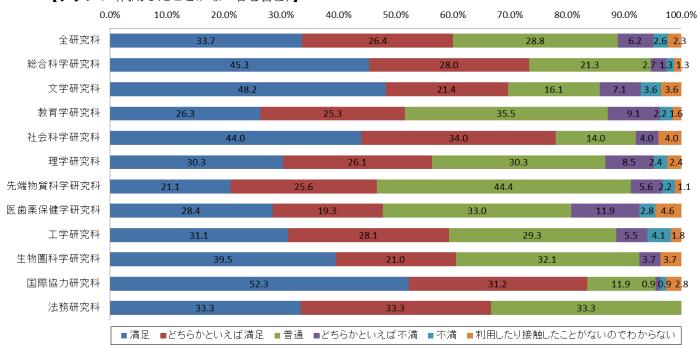
25 所属研究科の学生支援室の対応

設問 42 所属学部・研究科の学生支援室の対応について、印象や満足度を教えてください。

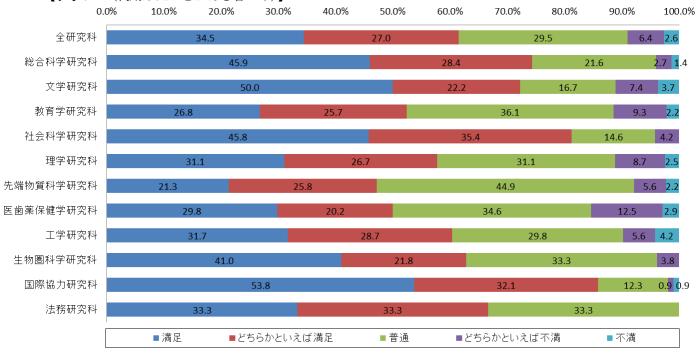
「利用したことがない」と回答した割合が学部生は6.1%であったが、大学院生では2.3%であった。また、利用したことがある者のうち61.5%(グラフ2)が「満足である」「どちらかといえば満足」と回答しており、大学院生は学部生よりも学生支援室を利用する割合が高く、満足度も高いことがわかる。

「満足である」「どちらかといえば満足」と回答した割合(グラフ2)が高いのは国際協力研究科(85.9%), 社会科学研究科(81.2%)であった。全研究科における傾向は、前回調査と同様であった。

【グラフ1 (利用したことがない者を含む)】



【グラフ2(利用したことがある者のみ)】

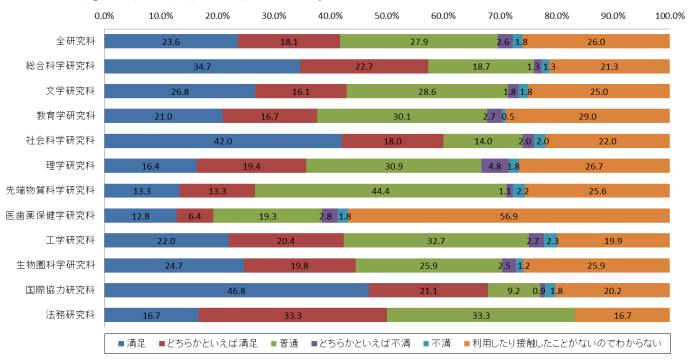


26 学生プラザの学生支援部門の対応

設問 43 学生プラザの学生支援部門の対応について、印象や満足度を教えてください。

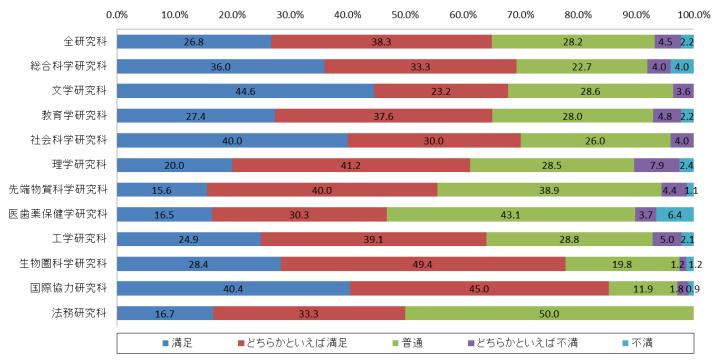
全体の74%が学生プラザの学生支援部門を利用しており、前回調査と同様である。また、学部生の利用割合(68.5%)よりも高いことがわかる。

「満足である」、「どちらかといえば満足」の割合は前回調査より3.8%増加し、「不満である」「どちらかといえば不満」と回答した割合も3.3%減少している。



27 本学の教育・学習、学生生活などの全体的な満足度 設問44 本学での教育・学習、学生生活などに関して、全体として「良い」、「楽しい」と感じる など、満足していますか。

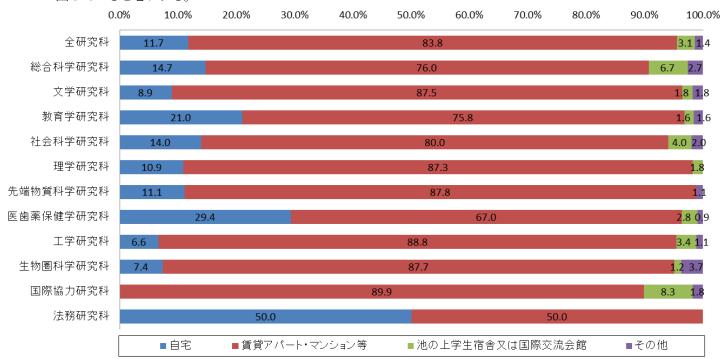
学部生に比して、満足度(満足+どちらかといえば満足)が抑え気味である点には留意が必要であろう。学部生と類似の傾向として、医歯薬保健学研究科の院生の満足度が他研究科に比して低い点には留意すべきであろう。おそらくは、霞地区固有の問題を抱えていると思われるので、要因探索が必要であろう。



28 居住形態

設問45 居住形態を教えてください。

多くの学生が賃貸アパート・マンションに居住していることがわかる。教育学研究科, 医歯薬保健学研究科の自宅生比率が高いが, おそらくは教育学研究科は現職教員や社会人を多く受け入れていることに起因しているだろう。医歯薬保健学研究科については, 学部生でも同様の傾向が見られたが, 地元出身者が多いことに起因していると思われる。



29 通学方法

設問46 通学方法を教えてください。(複数回答可)

総じて、主たる移動手段は自転車であり、次いで徒歩あるいは自動車の利用割合が高い。学部生と比しても自動車利用の割合が高い。

